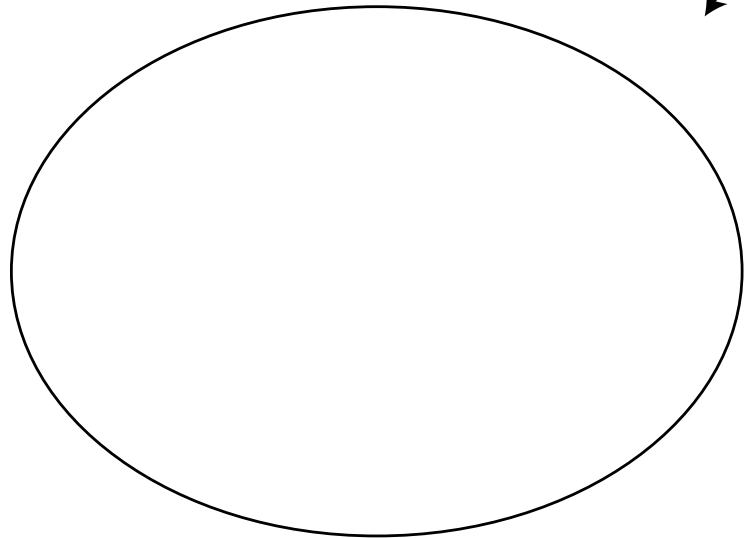
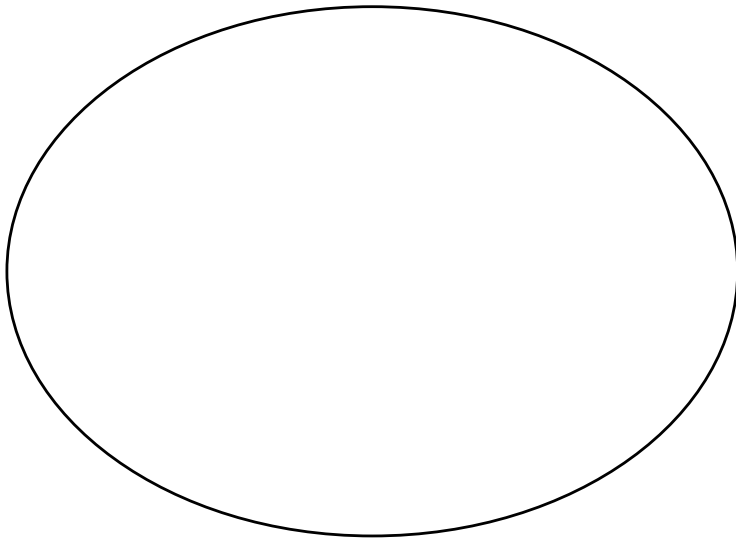


ふた

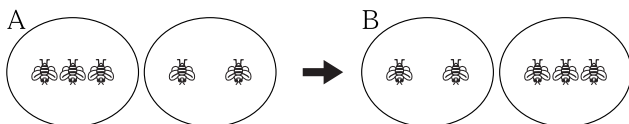
折り隠す



ステップ1

開いたままで皿を見せてから、折り隠して、皿に図Aのようにハチを置く。
開いて見せ、左の(3つ)の方が勝ちで右の(2つ)の方が負けだと教える。

次に「これからふたをして、ハチを何度も入れ換えますよ。どっちが勝ちか教えてね」と言って折り隠し、図bのように左と右を入れ替えて開き、き、どっちが勝ちか問う。

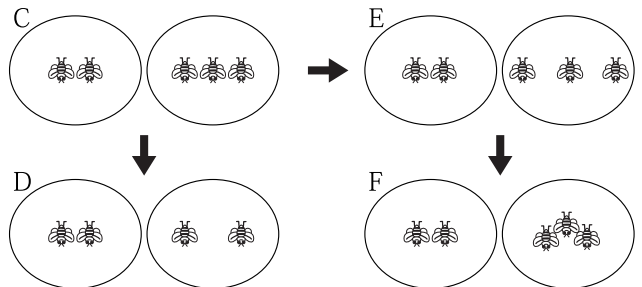


- ・試行中、数に言及したり、応答してはいけません。
- ・ハチの置き方を変える作業はすべてふたをして行う。
- ・誤答があったら再試行し、安定した理解の有り様を見る。
- ・「勝ち」でなく「負け」であっても正しく指摘できればよい。

ステップ2

図Cのようにハチを置いて見せ、どちらが勝ちかを問う。
ふたをして、Dのように3つの中の1つを取り除き、開いてどっちが勝ちか問う。

再度、Cのように置いて勝ちを問うてから、ふたをして勝ちの方のハチの列をEのように長くしたり、Fのように短くしたり、移動する。それぞれどちらが勝ちかを問う。



手品風の保存実験
幼児の数の保存;追試

3568 © Adeamland

- 1) ハチの紙ピースを切り取り、折り線で折って準備。
- 2) 「面白いクイズをしよう」と誘い、ステップ1・ステップ2の手順説明の通り試行。
- 3) 子どもが勝ちとした方の図をマルでマークしておく。
- 4) 正誤や評価を必ずしも伝えなくてよい。

- a) Rゲルマンの'magic experiment'の簡便化した模擬。
- b) ピアジェの「幼児は数量の保存ができない」とする有名な保存実験の知見を、このような幼児がなじむ設定を用いた実験でくつがえした。原典はねずみのおもちゃで行っている。

特定用具: 不要

Date: